

令和5年度 島田樟誠高等学校 学校評価書

教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

教育方針

- 1 充実した学校生活を送るために明確な目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育て、学力を向上させる。
- 3 部活動などに積極的に取り組む姿勢を育て、心身共に健やかな成長を図る。
- 4 思いやりの心や規範意識を育み、社会性を身に付けさせる。
- 5 進路意識を高め、組織的・系統的な指導を通して進路目標を達成させる。

令和5年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	関係者評価
教育課題の解決に積極的に取り組む。	目指す学校像や育てたい生徒像の共通理解を深め、男女共学校として地域から信頼される教育活動を推進する。	B	「知識・技能を身につける」、「新しい自分を発見する」、「人間性を高める」、という目標に基づいて教育活動を展開した。令和6年度入試における本校への志願状況は、単願228人、併願480人(2/1時点)であった。単願は、昨年より下回り一昨年とほぼ同数であった。地区的には焼津が増だが、榛原・相良の減が顕著であった。本年度の転退学者数は18人(2/1時点)で、昨年度(22人)並みと予想される。 保護者アンケートでは、この項目について63%が達成という評価であった。	B
	部活動等に全力で取り組み、心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A	全校の部活動参加率は65%と、例年並みである。部活動設置状況は、運動部が13、文化部が9。主な運動部活動実績(高校総体、新人戦、選手権等)として、卓球部は団体に県総体(女3位、男4位)、県新人戦(女2位、男4位)で、ともに東海大会に出場した。個人戦では新人戦県大会で1年女子が優勝した。陸上競技部も東海総体に出場した。バレーボール部は県総体3位で東海総体に初出場した。春高バレー県予選でも3位に入賞した。水泳部も、東海総体に出場した。弓道部も東海総体に出場するとともに、全国私学大会に男女団体出場した。うち男子はベスト8に進出した。その他柔道部、サッカー部、剣道部、バドミントン部、将棋部が県大会に出場した。	A
目標意識を育てる。	学校生活の様々な分野における具体的な目標を持た	B	年度当初それぞれの学年、及び各HRでクラス目標を定めた。全てのクラスで教室に目標を掲示し意識づけを行った。全学年で週1時間、総合的な探究学習「夢実現プロジ	B

	せる。		エクト」を実施し、進路目標設定や実現に向けて前向きに取り組ませた。保護者アンケートでは、この項目について60%が達成という評価であった。	
	目標達成の手掛かりとして資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	A	生徒たちが挑戦した主な検定は、漢字検定、英語検定、数学検定、日本語ワープロ検定、表計算検定、文書デザイン検定などである。うち上位級合格者(2/1時点)は、英検2級(7人)、漢検2級(9人)、数検2級(6人)プレゼン検定1級(1人)、2級(4人)、ワープロ検定2級(4人)、文書デザイン検定2級(5人)である。	A
学習指導を充実する。	校内や校外の研修に積極的に取り組むとともに、ICT教育の推進を図る。	B	昨年からICT教育推進のため常勤全職員にiPadを整備したが、今年度は非常勤職員にも整備した。また1年生全員にiPadを購入させ、1年生全教室にモニターを設置した。11月以降ICT機器活用公開授業を実施し、9教科12人の教員が授業公開した。 保護者アンケートでは、この項目について38%が達成という評価であった。	B
	授業の質を高めるため、アクティブ・ラーニング、探究学習、基礎力定着のための学び直し等に積極的に取り組む。	A	研修委員会が主催し若手教員研修会を定期的に行い、研究授業も行った。県私学協会主催の研修(初任研、5年研、10年研、リーダー研)に該当教員が参加した。またオンライン研修システム「Findアクティブラーナー」により、日常的に研修に取り組んでいる。探究学習の目玉として1年で「アド街ゼミ」、2年で「ミライプロジェクト」を実施した。1年生の学び直し学習「マナトレ」を今年度もチーム・ティーチングで実施した。 保護者アンケートでは、この項目について65%が達成という評価であった。	A
	読書の習慣を身に付けさせ、語彙力・読解力を向上させる。	A	年間をとおして毎朝10分間の朝読書を実施した。また図書課、図書委員会が中心となって、生徒一人一人に読書記録を記入させた。年間最も多く本を読んだ生徒を「読書王」として表彰した。今年の読書王(2年男子)は年間70冊読破した。一方図書館から最も多く本を借りた生徒を「図書館王」として表彰した。今年の図書館王(2年男子)は年間95冊を借りて読書に親しんだ。一方国語科の夏季休業中生徒個々に読みたい本を注文させる取組は今年度も継続した。	A
生活指導を徹底する。	日常的な挨拶を心がけ、服装、頭髪等ルールやマナーを守る。	A	全校をあげての挨拶運動、朝と帰りの教員による登下校指導、さらには運動部員等が率先して大きな声での挨拶により、学校全体の挨拶が習慣化している。結果来校者や地域の方々から好評価を得ている。服装、頭髪、及び眉ピアス指導を毎月実施している。また指導にブレがないよう学期に一度全校での指導も行っている。	A

	規則正しい生活習慣を確立し、欠席、遅刻をしないよう心身の健康に努める。	A	<p>生徒対象の学校生活アンケート（12月実施）の結果、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した生徒は、3年生87%、2年生74%、1年生72%と概ね良好であった。また保護者から見たわが子の学校生活全般への満足度（「満足」及び「どちらかといえば満足」）は、85%とこちらも良好であった。一方生徒指導を受けた件数（校長訓戒以上）は年間10件（2/1時点）で、昨年度（18件）より減少傾向であった。ただし本年度もSNS上でのトラブルから生徒指導となったケースがあり、12月全校生徒を対象に、男女別のモラル講座を実施した。また保護者からの欠席、遅刻連絡はメールによる連絡だが、欠席者に対してはその日のうちに担任が電話して内容を確認している。また多欠席等悩みを抱える生徒たちのためにカウンセラー2名が週3日来校して生徒相談を実施している。</p> <p>保護者アンケートでは、この項目について82%が達成という評価であった。</p>	A
進路指導を充実する。	「夢実現プロジェクト」等を有効活用し、早期から進路目標を明確に持たせる。	A	<p>夢プロについては昨年度ワーキンググループでカリキュラム開発し、今年度から実践している。具体的には外部団体と関わる学習に取り組んだ。キャリア探究コース1年生は、自分で会社を調べアポ取りして会社見学する「アド街ゼミ」、2年生はグループごと企業と協働して課題解決に取り組む「ミライプロジェクト」を行った。進学探究コース、特別進学コースは、校外での進路説明会にクラス全員で参加した。また特進コースは防災に関する取組で私学協会奨励賞を受賞した。</p> <p>保護者アンケートでは、この項目について65%が達成という評価であった。</p>	A
	進路目標を達成させるために、組織的、体系的な指導を強化する。	A	<p>今年度も「進路のしおり」を発行し1年次から計画的に指導した。3年生に対しては全職員が進路サポーターとなり進路集会を年間6回実施した。3年生の進路決定状況は、2月1日現在で四大進学65人(24%)、短大・専門学校進学79人(30%、短8、専71)、就職107人(40%)、未定16人(6%)となっている。国公立大学には特別進学コース12人、進学探究コース1人が合格している。特に特別進学コースは16人中12人(75%)が国公立大学進学を決めるとともに、東北大にも合格するなど実績をあげた。また就職でも今年度初めて島田掛川信用金庫（女子）に内定するなど結果を出した。</p> <p>保護者アンケートでは、この項目について65%が達成という評価であった。</p>	A
安全や健	交通安全に対	B	自転車マナー向上のため交通安全街頭指導を年2回（5	B

康に関わる教育を推進する。	する意識を高め、交通ルールの遵守を徹底する。		月、10月) 行い、交通安全委員生徒と職員がマナー遵守を呼びかけた。また交通安全講習を10月に2回実施した。1, 2年生対象には警察官、3年生対象には自動車学校担当が講師を担当した。さらに年度当初に自転車点検を一斉に行った。年間交通事故数(2/1 現在) 15件(昨年度17件)であった。 保護者アンケートでは、この項目について62%が達成という評価であった。	
	健康についての関心を高め、感染症予防など日常の健康管理ができるよう指導する。	A	コロナウイルス感染症は5類となったが、インフルエンザ感染予防も考慮し、引き続き全教室に手指消毒液を設置している。保健委員会生徒が健康啓発のため「保健便り」をほぼ毎月発行した。2月1日現在8号まで作成し生徒職員に配布した。このあと第10号まで発行予定である。	A
	地震等の災害に対する防災意識を高め、防災訓練等の方法を工夫する。	A	今年度も地震想定避難訓練を2回実施(6/8, 10/18)した。6月はグラウンド避難、10月は避難行動の後図上訓練を行った。両日とも訓練当日朝、防災委員が各HRで防災行動を説明し啓発を図った。12/3 県一斉の地域防災訓練への本校生徒参加率は、21%であった。今年度は訓練前日のフィリピン地震により静岡県沿岸に津波警報が発令され、海沿い市町の訓練が中止となったため参加率が下がった。 保護者アンケートでは、この項目について62%が達成という評価であった。	A

A～Dの評価については次のように規定する。

- A 十分に達成できた。
- B おおむね達成できた。
- C やや不十分な面が見られた。
- D 不十分であった。